

2020
JULY

No.30

鹿児島大学 同窓会連合会報



鶴丸城跡地の黎明館前石垣に147年ぶりに復元された御楼門

特別
寄稿

アジア初、獣医学教育の国際認証を取得

宮本 篤 (共同獣医学部・前学部長)

法文学部の改組と法学教育の国際化

松田 忠大 (法文学部長)

鹿児島大学同窓会連合会

鹿児島大学同窓会連合会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員を持って組織する。

各学部同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会南明会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
- 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

- 第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
 - 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
 - 4 幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
 - 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
 - 6 監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

(役員任期)

第9条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。
- 3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

- 2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。
 - (1) 役員を選任に関する事項
 - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) 会則の改廃に関する事項
 - (5) その他会長が必要と認めた事項
- 3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。

4 総会は、第1項に規定する役員過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

- 2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。
 - (1) 総会に付議すべき事項
 - (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

- 2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成31年4月6日から施行する。

第30号会報(令和2年7月発行)に寄せて

同窓会連合会 会長 富永 茂人



昨年(令和元年)は母校鹿児島大学が創立70周年を迎え「創立70周年記念式典」が開催されました。鹿児島大学の卒業生は11万人を越えましたが、OB、OGの皆様が全国および世界でご活躍されていることに対して「鹿児島大学同窓会連合会」会長として心よりお慶び申し上げます。

さて、本年・令和2年度は、学部1,948名、大学院に599名の計2,547名が入学されました。しかしながら、今年1月以降、世界中に猛威を振るっている「新型コロナウイルス」の感染拡大防止のため、例年鹿児島県総合体育センター体育館で挙行されている入学式・式典は規模を縮小して、鹿児島大学事務局4階特別会議室で実施されました(鹿大HP)。入学式を心待ちにされていた新入生の皆さんやご家族の皆さんにとって本当に残念なことと存じます。

「鹿児島大学同窓会連合会」では、このような状況の下、例年入学式の週の土曜日に開催してきた「鹿児島大学同窓会連合会総会」および「懇親会(卒業生のつどい)」を、参加者の安全確保と感染拡大防止の観点から、まことに残念ながら、当面延期することを「役員会」(3/18開催)で決定し、「予算(案)」を含む「令和2年度の事業計画(案)」等については「暫定」で執行することにいたしました。延期後の開催日程等については、新型コロナウイルスの収束状況を踏まえ、幹事会および役員会で協議し、年度半ばを過ぎても開催の目処が付かない場合、懇親会を中止する可能性もありますが、総会は必ず開催し、令和2年度予算(案)等を審議、決定することにいたしました。同窓生の皆様は、恒例の「懇親会(卒業生のつどい)」を楽しみにされていたことと存じますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。そして、状況が改善し「総会」および「懇親会」が開催される場合には奮ってご出席賜りますようお願い申し上げます。

また、創立71年目に入った鹿児島大学の教育・研究・社会貢献に役立つように、各学部の同窓会活動とともに「同窓会連合会」として鹿児島大学と連携してこれまで以上の活発な活動を行って参りますので皆様のご支援をお願い申し上げます。

同窓会連合会としても、「新型コロナウイルス」の早期の終息と同窓生全員が平常の生活に戻ることを祈願しております。その日まで、皆様お元気で過ごしてください。なお、鹿児島大学同窓会連合会活動については、鹿大HP内の卒業生のページおよびFacebookに定期的にアップしておりますので、是非ご一読ください。

目 次

第30号の会報発行(2020年)に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	9
特別寄稿(共同獣医学部、法文学部)	18

学 長 挨拶

鹿児島大学長 佐野 輝



鹿児島大学同窓会連合会の皆様方におかれましては、コロナ禍の中、お元気でお過ごしでしょうか。日頃より本学の教育・研究並びに大学運営等に関しまして、ご理解とご協力を賜っておりますが、この度のコロナ禍を受けて、生活要支援の状態にある学生を支援するため「鹿児島大学修学支援事業基金」へのご協力をお願いしたところ、江口同窓会連合会名誉会長をはじめ各同窓会及びOB、OGの皆様方から多大なご支援を頂き、この場

をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、鹿児島大学におきましては、昨年・令和元年に70周年を迎え、式典等を無事終えたのも束の間、本年に入って全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が深刻な状況となってきた影響を受け、例年、鹿児島県総合体育センター体育館で一堂に会して実施されていた式典を行うことは適当でないとの判断のもと、令和2年3月25日には卒業式・修了式を、簡素な形で学内会議室で挙行了しました。学部卒業生1,920名、大学院修了生576名、そして卒業生・修了生をこれまで励まし支えてくださったご家族の方々にも、非常に残念な思いをさせたのではないかと考えております。また、4月7日には、入学式も卒業式と同様に簡素に行いました。今年度は、9つの学部に1,948名、また、9つの大学院研究科に599名、総勢2,547名の新入生を迎えました。このうち海外から82名の留学生を迎えました。これら海外からの留学生の受け入れにも、入国許可等で難しい問題もありました。さらには、国内でも県外からの入学者につきましては、健康観察期間の設定など、例年とは異なる受け入れ体制で臨まねばなりません。続いて、新学期が始まる時期になっても、講義実習はすぐさま開始することができず、4月20日から遠隔授業に限っての開講となりました。5月21日になってやっと対面授業を含めた教育が開始される事態となりました。それでも、共通教育等の多くの科目が遠隔授業で行われることが続行されているため、新入生をはじめとした多くの学生がキャンパスにはいないという状況であり、キャンパス内の風景も人気の少ない寂しいものとなっています。

現在、パンデミックをもたらししている新型コロナウイルス感染症は、私たち人類にとって大きな試練となっています。昨今のグローバル化の進展により、小さな地域での感染症の発生が、すぐにも地球規模の問題となって拡散する事態を招いています。全世界で多数の死者が発生し、防疫のために各国は国境封鎖を行い、東京オリンピック・パラリンピックは延期となり、経済活動への大きな打撃からの世界的な経済不安など、混迷は深まるばかりです。この事態は、地球レベルでの人類の共存を脅かしかねないレベルにまで陥っており、人類が営々と創り上げてきた社会・経済の仕組みそのものをも脅かすものとなりつつあります。しかし、このような時こそ、人類が蓄えてきた「知の力」を十分に活かすべきであると考えられます。「知の力」というものを考えると、大学とはその中心的な「知の拠点」であり、今こそ、私たちの本領を發揮せねばならないと考えられます。「知の力」の「知」とは、知識の「知」のみならず、知恵の「知」であり、熟慮をしてこそ「知」であります。本学の大学憲章では、「自主自律と進取の精神を培い、自ら困難に立ち向かい、地域社会や国際社会で活躍しうる人材を育成する」と謳っています。鹿児島大学で学ぶ者達には、このような精神を持ち、「知の力」をもって地球レベルの困難に立ち向かう人材として育ててほしいと願っています。

最後に、次号で原稿を書かせていただく折には、コロナ禍もひと段落となって、皆様の健康が維持されていることを祈りまして、筆を置きたいと思っております。

鹿児島大学の近況

－進取の気風あふれる総合大学－

(2019年11月から2020年4月までのトピックス)

○第35回京都賞受賞者を囲む鹿児島コロキウムを開催（12月6日）

京都賞受賞者鹿児島講演会に先立ち、11月15日、部門ごとの受賞者を囲む鹿児島コロキウム（鹿児島大学主催）を鹿児島市内のホテルで開催しました。

チン・W・タン博士（化学者、香港科技大学 IAS 東亜銀行教授、ロチェスター大学名誉教授）受賞の先端技術部門では、門川淳一理工学研究科教授が進行役となり、寺田教男理工学研究科教授、野見山輝明理工学研究科准教授、および理工学研究科修士課程2年の野口誠一郎さん、千北大喬さんが参加し、活発な議論と意見交換が行われました。

ジェームズ・ガン博士（宇宙物理学者、プリンストン大学ユージン・ヒギンズ宇宙物理学名誉教授）受賞の基礎科学部門では、令夫人で天文学が専門のジル・ナップ博士も同席の下、半田利弘理工学研究科教授が進行役となり、鹿児島大学天の川銀河研究センター教員である和田桂一理工学研究科教授、今井裕共通教育センター准教授、中西裕之理工学研究科准教授、永山貴宏理工学研究科准教授、塚本裕介理工学研究科助教および物理・宇宙専攻の大学院生である宇野友理さん、川本莉奈さん、平田優志さん、村瀬建さんが参加し、天文学研究についての意見交換が行われました。

アリアヌス・ムヌーシュキン氏（演出家、太陽劇団創立者・主宰）受賞の思想・芸術部門では、鶴戸聡法文学系准教授が進行役となり、二村淳子共通教育センター講師、および、ボルドー大学に留学経験のある法文学部人文学科の学部生の岡村誉子さん、宮本夏実さん、安樂美涼さんが参加し、情報化時代における演劇について議論が行われました。

各分野最高峰の受賞者と直接議論が出来たことは、鹿児島コロキウム参加者にとって大きな財産となりました。受賞者が研究を通じて築き上げてきた人生観や世界観にも触れることができ、本学における教育研究のさらなる発展に資する貴重な機会となりました。

○鹿児島大学創立70周年記念式典・記念シンポジウムを挙行（12月13日）

12月12日、鹿児島大学稲盛会館において、鹿児島大学創立70周年記念式典・記念シンポジウムを挙行しました。

記念式典では、佐野輝鹿児島大学長の式辞に続き、来賓を代表して萩生田光一文部科学大臣（代読：淵上孝文部科学省高等教育局国立大学法人支援課長）、三反園訓鹿児島県知事、富永茂人鹿児島大学同窓会連合会会長からご挨拶をいただき、約200名の参加者と共に、創立70周年という節目を盛大に祝いました。

本式典終了後は、記念シンポジウムが開催され、記念講演会として、学校法人千葉学園理事である宮崎緑氏をお迎えし、「国際人育成の視座」と題して、ご講演いただきました。また、宮崎氏には、引き続きパネルディスカッションにおいても、パネリストとしてご参加いただき、その他5名のパネリストと共に、テーマ「豊かな自然と文化を有する奄美の未来を考える」について、時間いっぱい大いに盛り上がりました。

式典後は、本学工学部の卒業生であり、鹿児島大学名誉博士である稲盛和夫氏（京セラ株式会社名誉会長）から、本学の教育・研究の充実・発展の場としてご寄附いただきました稲盛記念館のオープニングセレモニーを行いました。

本セレモニーでは、金澤しのぶ稲盛財団理事長、岩崎芳太郎鹿児島商工会議所会頭、岩切剛志鹿児島県副知事、坪内博仁鹿児島市立病院長、盛和塾鹿児島顧問の上原昌徳株式会社山路社長、佐野学長ら6名によるテープカットの後、参加者約180名は、引き続き稲盛記念館内のレストランにおいて、記念祝賀会に参加し、本学創立70周年記念と稲盛記念館オープン記念を祝いました。

○アジア初となる欧州国際水準の獣医師育成教育機関として認定（12月16日）

鹿児島大学共同獣医学部及び山口大学共同獣医学部は、この度、獣医学教育の欧州国際認証となる欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）認証を12月11日（現地時間）取得し、同じく認証取得した北海道大学獣医学部及び帯広畜産大学共同獣医学課程の4大学による合同記者会見を12月13日、文部科学省にて行いました。

本認証の取得は、国立大学改革強化推進事業「国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築」（平成24年度～平成29年度）の支援の下、多くの自治体・民間企業ならびに同窓会等の協力があり達成された成果の一つとなります。

本認証の取得は、日本のみならずアジアの獣医学高等教育機関においても初めてのことであり、これによって本学

共同獣医学部は国際水準の教育を行っているとお墨付きを得たこととなり、近年のグローバル化の流れの中で世界に通用する人材の育成が更に期待されるものとなります。

これまで、本学共同獣医学部は、獣医学のグローバル人材の育成を目的として、学部運営組織、教育カリキュラム、施設設備、教育資源、及びそれらの品質評価システムについて長年にわたって抜本的な改革に取り組み、その外部評価の指標としてEAEVEによる獣医学教育の国際認証の取得を目指し、その努力の成果が認められ、2017年10月の事前審査及び本年6月の本審査を経て、この度の取得に至りました。

今回の認証取得により、本学共同獣医学部が、欧州における獣医師育成の水準に達しているとアジアで初めて認定されたものであり、昨今国際的にボーダーレス化が進んでいる疾病の制御や食の安全に関わる獣医師の育成機関として、アジアにおける獣医学教育改革を牽引していきたいと考えております。

○学生が「内閣府青年国際交流事業」の参加成果を鹿児島県副知事に報告（1月14日）

12月20日、「内閣府青年国際交流事業」で、「東南アジア青年の船」に参加した法文学部人文学科4年の野崎翔太さんが、鹿児島県庁を訪問し、鹿児島県の中村かおり副知事へ成果報告を行いました。

この事業は、日本と東南アジア10か国の青年が、「東南アジア青年の船」に乗船し生活を共にする中で、各国事情の紹介や討論を行うとともに、船内及び訪問国において各種交流活動を行うことにより、相互の友好と理解を促進し、あわせて日本の青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力における実践力の向上を図り、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮することができる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的として実施しています。

報告では、野崎さんから事業の趣旨や内容説明のあと、今回の事業を通じて学んだことや船内での体験談について歓談しました。最後に中村副知事から「今回の素晴らしい経験を活かして、鹿児島から世界に向けてこれからも頑張ってください。」と野崎さんへ激励の言葉をいただきました。

○「日本野球誕生125周年中馬庚先生記念試合」を開催－東大野球部 vs 鹿大野球部－（3月19日）

3月6日、「日本野球誕生125周年中馬庚先生記念試合」として、東京大学硬式野球部と鹿児島大学硬式野球部の大学間交流試合を、新型コロナウイルス拡大感染予防のため、無観客にて鹿児島市鴨池市民球場において開催しました。

この試合は、鹿児島市出身で尋常中学造士館（同校は明治34年の第七高等学校造士館、昭和21年の第七高等学校を経て現在の鹿児島大学に至る）に教諭として勤務された中馬^{ちゅうまなかえ}庚先生が、1895（明治28）年にベースボールを「野球」と翻訳し、1897（明治30）年に日本初の野球指導書「野球」を著されてから125周年を迎えた今年度、本学が創立70周年、中馬庚先生が選手・指導者として活躍された第一高等学校、東京帝国大学、後の東京大学運動会硬式野球部が創立100周年を迎えたことを記念し、中馬庚先生の像が建立されている鴨池市民球場において開催したものです。

佐野輝鹿児島大学長の始球式により試合が始まり、2回表に東京大学が1点を先制し、その後は両者互いにチャンスを作るもののなかなか点が奪えず、9回表に追加点を加えた東京大学が2対0で勝利しました。

最優秀選手賞は東京大学の大音周平選手、敢闘賞は鹿児島大学の帖佐竜聖選手に授与されました。

試合後は、中馬庚先生像の前で両大学の選手同士が健闘をたたえあい、中馬庚先生の功績を振り返りました。その後、鹿児島大学稲盛記念館において表彰式、昼食会を行い、東京大学と本学の野球部員にとってかけがえのない貴重な経験となりました。

本試合の開催にあたっては、多くの皆様のご理解とご支援を賜り、深く感謝いたします。

○令和元年度学位記授与式を挙行～ご卒業・修了おめでとうございます！（3月25日）

3月25日、鹿児島大学事務局4階特別会議室において、令和元年度学位記授与式を挙行しました。

今年度の卒業・修了者は、学部卒業生1,920名、大学院修了生576名の計2,496名です。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年、鹿児島県総合体育センター体育館で挙行している卒業式・修了式を取りやめ、規模を縮小して実施しました。

授与式では、佐野輝学長から、学部代表者の豊島宥視さん（法文学部4年）、修士課程代表者の宮路裕之さん（農学研究科2年）、博士課程代表者の池田由里子さん（保健学研究科3年）の3名に学位記が授与されました。

続いて、佐野学長は告辞の中で、本学を卒業する2,496名への祝意と、学生をこれまで支え励ましてくださったご家族の皆様への謝意を述べるとともに、本学の理念「進取の気風にあふれる総合大学」について触れ、卒業後も真のグローバル人材として羽ばたいてほしいとエールを送りました。また、本学の名誉教授である中村晋也先生が制作した「若き薩摩の群像（鹿児島中央駅前に設置）」や、本学の「進取の気風広場」に設置された稲盛和夫名誉博士の銘文を紹介し、卒業

後も日本および国際社会の様々な課題に果敢に挑戦し、世界の平和と繁栄のために役割を果たしてほしいと話しました。

そして、学長自身の座右の銘である「生死未断 不可妄陳（せいしいまだたらずして もうちんすべからず）」が、贈る言葉として添えられました。

最後に、山口優萌さん（教育学部3年）による在学生総代送辞、松原萌さん（農学部4年）による卒業生総代答辞が行われ、式は厳かに終了しました。

本学を卒業・修了される皆様、本当におめでとうございます。

これから、社会を力強く牽引するリーダーとして活躍・大成されることを期待しております。

○令和2年度入学式を挙行～ご入学おめでとうございます～（4月7日）

4月7日、鹿児島大学事務局4階特別会議室において、令和2年度入学式を挙行しました。今年度の入学生は、学部入学生1,948名、大学院入学生599名の計2,547名です。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、鹿児島県総合体育センター体育館で例年挙行している式典を取りやめ、規模を縮小して実施しました。

人生の節目となるこの式典を心待ちにしていた新入生の皆さんやご家族の皆さんにとって本当に残念なことと思います。

式では、佐野輝学長による入学許可の後、学部と大学院それぞれを代表し、小林優莉さん（共同獣医学部）と萩山勇希さん（農林水産学研究科）の2名が入学生宣誓を行いました。

続いて佐野学長の告辞では、入学生に祝意を表するとともに、本学の大学憲章を紹介し、現在猛威を振るう新型コロナウイルスに触れながら、「学生の皆さんには地球レベルの困難に立ち向かう人材として育てほしい」と願いを込めて述べられ、本学が目指す「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学」について説明の後、「地（知）の拠点」の活力を通じ、「地の力」をもって、地球レベルの困難に立ち向かう人材育成機関として、「真のグローバル教育研究拠点を目指し学生の皆さんとともに進んでいきたい」とエールを送りました。

新入生の皆さん、ご入学まことにおめでとうございます。皆さんが鹿児島大学という「知と地の力」を存分に活用し、自らをいっそう鍛え、大きく成長されますことを教職員一同願っています。

○教員の受賞等

- ①共同獣医学部の矢吹映教授が「日本獣医学会賞受賞」を受賞（9月11日）
- ②理工学研究科の久富あすかさん、小野智司准教授らの論文が国際会議「2019 International Conference on Technologies and Applications of Artificial Intelligence」でExcellent Paper Awardを受賞（11月21日）

○学生の表彰等

- ①理工学研究科の鈴木崇大さんが「第33回人工知能学会全国大会」で全国大会学生奨励賞を受賞（6月4日）
- ②理工学研究科の大城章瑚さんが「九州地区高分子若手研究会・冬の講演会」で優秀ポスター発表賞を受賞（11月7日）
- ③理工学研究科の平雄也さんが国際会議「2019 Japan/Taiwan/Korea Chemical Engineering Conference」で2019 JTK Conference Excellent Poster Awardを受賞（11月13日）
- ④【再掲】理工学研究科の久富あすかさん、小野智司准教授らの論文が国際会議「2019 International Conference on Technologies and Applications of Artificial Intelligence」でExcellent Paper Awardを受賞（11月21日）
- ⑤理工学研究科の平雄也さんと宮島董さんが日本エネルギー学会西部支部主催「第4回学生・若手研究発表会」で優秀学生賞（ポスター発表）を受賞（11月22日）
- ⑥理工学研究科の平雄也さんが公益社団法人化学工学会粒子・流体プロセス部会流動層分科会主催の「第25回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム」で優秀ポスター賞を受賞（11月28日）
- ⑦理工学研究科の宮島董さんが国際会議「The 32nd International Symposium on Chemical Engineering」でBest Poster Presentation Awardを受賞（12月7日）
- ⑧法文学部の中吉聖仁さんと是石弘基さんが「NRI 学生小論文コンテスト」で最高賞（大賞）を受賞（2月20日）

○海外の大学等からの学長表敬訪問

- ① 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館のヴェルナー・ケーラー総領事一行（10月31日）

〈以上、鹿児島大学ホームページから転載〉

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う 「鹿児島大学修学支援事業基金」への ご協力について（お願い）

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、社会経済へ深刻な影響を与えました。現在は、緊急事態宣言が解除され、少しずつ日常を取り戻しつつありますが、同窓生の皆様におかれましては、未だ不自由な日常生活を余儀なくされていることと拝察し、心よりお見舞い申し上げます。

この度の新型コロナウイルス感染症の影響により、本学の学生は、勉強や課外活動等が制限され、不安な日々を過ごしております。中にはアルバイトが出来なくなることで日々の生活に支障をきたした学生も少なくありません。

このような事態を受け、本学では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅にアルバイト収入が減少した学生、又は家計が急変した世帯の学生など生活要支援の状態にある学生に対し、緊急支援措置として返済を要しない「鹿児島大学学生緊急支援金」を給付することといたしました。

本支援金の支給に当たっては、学業継続が困難な学生に対する早急な支援を実施するため、5月に第一次支援金を募集したところ、1,376人の学生から申請があり、審査の結果、1,294人の学生へ支援金を給付しました。

第一次支援金給付の目安としていた300人の4倍以上の申請があったことにより、想定以上に多くの本学学生が経済的に困窮していることが浮き彫りとなりました。なお、学生の被った経済的ダメージは大きく、今回の支援策だけでは十分とは言えないことから、現在、追加の支援策を検討しております。

なお、今回の第一次支援金では、本学卒業生の稲盛和夫氏（京セラ名誉会長）のご寄附により設置した「鹿児島大学稲盛和夫基金」を原資として給付を行ったところですが、今後の支援策においては、この稲盛和夫基金に加え、鹿大「進取の精神」支援基金の枠組みの一つである「鹿児島大学修学支援事業基金」も活用し、学生が安心して学業を継続するため、本学としてできる限りの支援を行いたいと考えております。

学内教職員をはじめ、元教職員やその他の皆様へ修学支援事業基金への協力を呼びかけておりますが、少しでも多くの学生を支援するため、同窓生の皆様にもご支援いただければ幸甚に存じます。

出費多端な折に大変恐縮でございますが、何卒この趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸、そして皆様の生活が一日も早く平常に戻りますよう祈念いたします。

国立大学法人鹿児島大学長 佐野 輝

■ご寄附のお申し込み

鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイトよりお申し込みいただけます。また、本学所定の振込用紙（寄附申込書も兼ねています）によりお申し込みいただくことも可能です。下記お問い合わせ先までご連絡ください。

■税制上の優遇措置

本学のご寄附に対しては、税制上の優遇措置（寄附金控除）が適用されます。特に本基金へのご寄附は、通常の「所得控除」に加え、小口寄附の減税額が大きくなる「税額控除」の方式も選択することができます。

■お問い合わせ先

鹿児島大学 総務部総務課基金・渉外係

TEL：099-285-3101 / FAX：099-285-7034 / E-mail：s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

江口 正純同窓会連合会名誉会長が寄附金贈呈

6月1日、鹿児島大学同窓会連合会名誉会長の江口 正純氏が学長室を訪れ、鹿児島大学修学支援事業基金への寄附金（二百万円）を佐野 輝学長に贈呈されました。

また、江口名誉会長からは「新型コロナウイルスの影響でアルバイト収入が減って困っている学生がいると聞いて心を痛めている。鹿児島大学は、地域にとってなくてはならない存在。寄附金は、お世話になった母校の学生のために役立ててほしい。」と温かいお言葉も添えられました。

佐野学長は、「経済的に困窮している学生のために大切にに使わせていただきます。」と謝辞を述べました。



江口名誉会長（右）と佐野学長

<鹿児島大学ホームページから転載>

鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Webサイトをご覧ください。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイト <http://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>

古本募金のご案内

鹿児島大学古本募金とは、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が本学に寄附される取り組みです。寄附金は、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けた整備・充実に役立てられます。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Webサイトをご覧ください。

鹿児島大学古本募金 Web サイト <https://www2.kishapon.com/kagoshima-u/>

遺贈によるご寄附のご案内

本学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携信託銀行をご紹介します。提携信託銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。詳細につきましては、Webサイトをご覧ください。

本学への遺贈をご希望される場合は、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、提携信託銀行へ直接お問い合わせください。

【提携信託銀行（五十音順）】みずほ信託銀行 鹿児島支店／三井住友信託銀行 鹿児島支店

遺贈によるご寄附 Web サイト <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1353/izou.html>

税制上の優遇措置について

本学へのご寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。また、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、個人住民税の税額控除が受けられます。なお、相続税申告期限内に遺贈により本学にご寄附いただいた財産については、相続税はかかりません。詳細につきましては、Webサイトをご覧ください。

お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係

TEL 099-285-3101／FAX 099-285-7034

E-mail s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

1. 令和元年度（第12回）法文学部同窓会表彰式

令和2年3月25日（水）法文学部同窓会表彰式を法文学部1号館2階の法経社会学科演習室で行いました。今年度は新型コロナウイルスの関係で同窓会入会式及び送別会・卒業祝賀パーティが中止になったことから、表彰式のみ行ったものです。

仮屋同窓会長から表彰状と記念品が人文学科久保田亘さんと木田夕菜さんに贈られました。その後仮屋同窓会長と高津学部長からお祝いの言葉がありました。

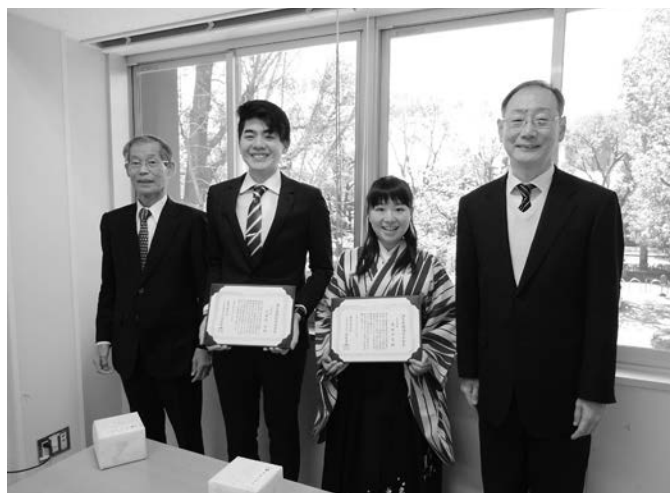
お二人の表彰理由は以下のとおりです。

① 人文学科 久保田 亘さん

ますます高齢化しつつある鹿児島県において、認知症の予防及び認知症罹患後の地域における生活支援が極めて重要な課題となっています。久保田さんはさつま町山崎で実施された認知症カフェに2018年10月から2020年2月まで、就職活動や卒業論文の合間を縫って、1年以上継続して参加しており、高齢者との交流を通じ、地域社会へ大きく貢献してきました。

② 人文学科 木田 夕菜さん

木田さんは、鹿児島大学の放送研究会で活動しており、1年生の時の平成28年12月3日の「第33回 NHK 全国大学放送コンテスト」の朗読部門で準優勝、2年生の時の平成29年12月22日には、「第12回（2017年度）NRI 学生小論文コンテスト」において、大学生の部で優秀賞を受賞しました。



2. 第14回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ

令和2年2月22日（土）第14回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。当日は生憎の天気でしたが、昭和50年理学部卒の平啓博さんがグロスで110も叩きながら隠しホールに恵まれ2回目の優勝をしました。なお、成績は以下のとおりです。

優勝	平 啓博（S50年、理学部数学科卒）	ネット	71.6
2位	牧 安伸（S41年、文理学部経済卒）	ネット	72.0
3位	畠野 秀之（S53年、法文学部法学科卒）	ネット	72.6
4位	南 勝（S49年、法文学部法学科卒）	ネット	72.8
5位	西堂路健一（S36年、文理学部心理卒）	ネット	73.2
ベストグロス	牧 安伸（S41年、文理学部経済卒）	グロス	84
ベストグロス	木場 晃（S41年、文理学部理学科卒）	グロス	84

◎次回は令和2年10月17日（土）南国カンツリークラブです。皆様、奮ってご参加ください。

教育学部同窓会

教育学部同窓会は、毎年度「同窓会運営基本方針の重点事項」を定め、理事会、総会の承認を得て活動している。昨年度の重点事項は下記の8項目であった。

【重点事項】

- 1 組織の充実のために、各役員及び会員の積極的な参加を推進する。
- 2 学年会員同士の絆を強めるために、支部、学年ごとの同窓会の充実を図り、さらに県外在住同窓生の組織化のあり方を検討する。
- 3 会の運営を充実するために、総務、研修、広報の専門部を組織し、専門部活動の活性化を図る。
- 4 「鹿児島の教育を語る会」活動を通して、「進取の気風」にあふれる在学生の育成に努め、会員との交流を深める。



(グループ毎に鹿児島の教育を語る)



(懇親交流会で在学生を励ます)

- 5 卒業後の進路が多岐にわたる状況を考慮し、在学生への支援に努める。
- 6 鹿児島大学及び鹿児島大学教育学部が行う国際交流活動及び「鹿児島の教育を語る会」の開催を充実して、在学生への支援に努める。
- 7 「人材活用事業」(地域の要請に応じた児童生徒の諸指導、生涯学習等)の周知を図り、その推進に努める。
- 8 会費納入奨励月間を設けて、会費未納者への会費納入を勧める。また、運営協力金への協力依頼を行い、財政基盤の強化を図る。

【同窓会運営協力金】

令和元年度の活動で特筆したいのは、重点事項の8に関する「同窓会運営協力金」を卒業生に協力依頼したことである。

教育学部同窓会の会費は、入学時に終身会費1万円を納入してもらい運営をしているが、入学者の定員減や未納者の増加等により会費は減少傾向が続き運営は厳しい状況にある。そのため、卒業生に1口千円の協力金を7月に依頼した。160人を越える卒業生から温かい賛同を得ることができたことに感謝したい。

(文責 幹事 東 寛治)

コロナ禍での学生実験

理学部同窓会南明会
代表幹事 有馬 一成
(平成3年・化学)

鹿児島大学同窓会連合会関係者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

2020年は新型コロナウイルスの流行に始まり、卒業式や入学式の中止、毎年恒例の同窓会連合会の総会・懇親会も延期となるなど、その影響は想定を遥かに超えるものとなりました。そして、この先の見えないコロナ禍にあっては、ウイルスに対する恐怖と同時に無用な倦怠感と焦燥感を覚えます。

理学部でも大学の方針に沿う形で、授業や会議は遠隔で行っています。私たち教員は、初めての状況の中を手探りで進めざるを得ず、いまだ何が正解なのか分かりません。また、学生は大学に来てられない状況（5月末時点）で、特に実験系の研究室の学生に対しては、十分な指導が出来ずに心苦しく思います。とは言え、大学としては感染のリスクを最小限に抑えながら、学生にとって不利益が生じないようにしていかなければなりません。

理系の学生にとって、必修の学生実験は遠隔というわけにはいきません。5月に入って、鹿児島では新たな感染者が出ていないこともあり、理学部では5月21日から実験の授業を開始しました。生命化学科3年生では、三密を避けるために学生を3つのグループに分け、同時並行で指導を行っています。私は生化学実験を担当しています。酵素反応速度の測定や今話題のPCR法、データベース検索などが実験項目にある中で、これまで何十年も内容を変更していないのが「発酵によるエタノールの合成」です。発酵は生化学の歴史そのものなのですが、最近の化学実験では、原始的だとか、ガスバーナーが危険だとかという理由で、蒸留を扱う機会は少なくなってきたようです。しかし、最初の1滴が出てくると学生からは歓声が上がります。このような化学らしい実験は、化学の基本原理を学ぶにはとても良い材料で、令和の時代にあっても、かえって新鮮で楽しいのではないのでしょうか。ただし、レポートは結構難しいですので、学生の皆さんは頑張ってください。かつての化学科では、「グルテンからグルタミン酸を抽出」したり、「人尿から尿素を精製」したり、今なお鮮烈に記憶に残る実験が行われていました。原始的でも面白かった実験のことを、コロナ禍の今、ふと思い出していました。



写真 生化学実験（生命化学科3年生）の様子

医学部同窓会

新型コロナウイルス感染症と御楼門完成

令和元年12月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症の感染者数は我が国でも増加の一途をたどり、令和2年4月7日に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が7都府県を対象に発出され、4月16日に対象地域が全都道府県に拡大されました。鹿児島大学を始めとして卒業式・入学式中止、謝恩会中止、オリエンテーション縮小などの対応が取られていますが、謝恩会中止、オリエンテーション縮小は卒業生・新入生に同窓会の存在をアピールする絶好の機会を失うことであり、同窓会にとっても重大事であります。5月25日には緊急事態宣言は全面解除となりましたが、イベント自粛、会食自粛などが打ち出されており、同窓会連合会では総会・懇親会延期、OBゴルフ大会中止が決定され、鶴陵会では6月の近畿支部総会、7月の福岡支部、8月の鹿児島本部、10月の熊本支部総会が中止となりました。

2020年4月11日に鶴丸城御楼門の完成式が挙行され、一般公開が始まりました。近づく人を圧倒するような見事な門が出来がりました。時期が新型コロナ感染症拡大防止対策の真ただち中であつたため、参加者を限定した完成式となったようですが、徐々に観光の目玉になるものと期待しています。御楼門工事のため、移動保管されていた七高生久遠の像、「北辰斜に」の歌碑、「楠の葉末」の歌碑は従来の場所より県立図書館側に移設整備されました。黎明館敷地内の鹿児島大学医学部跡の記念碑から見ると、正面に久遠の像があり、その左後方に御楼門を見ることが出来ます。鹿児島医療センター国道10号線沿いには私学校跡の碑とともに大学病院跡記念碑があります。御楼門にお越しの際はこれらの記念碑も訪ねて頂ければ幸いです。

(文責：医学部医学科同窓会鶴陵会会長 高松英夫)



保健学科同窓会

保健学科看護学専攻3期生卒業の梅木隆志と申します。鹿児島大学を卒業してから、早いものでもう10年以上が経過しました。以前は鹿児島大学病院医学部歯学部付属病院の看護師として勤務しておりましたが、現在は緩和ケア・ターミナルケアを中心とした緩和ケア病棟にて勤務しております。昨今の新型コロナウイルスの影響より、医療現場は大変緊迫した状態で日々の業務をおこなっております。また、患者様とその家族における人生の最期の場を提供することが多い緩和ケア病棟ではありますが、新型コロナウイルス感染対策として、面会の制限や家族であっても他県からの面会の禁止を行うなど、苦渋の対応を余儀なくされており、ジレンマや無力感を感じながら、看護業務を行っております。新型コロナウイルスが終息した暁には、鹿児島大学の卒業生とともに、労をねぎらいあいたいと思う今日この頃であります。

保健学科同窓会看護部会は、看護学校時代～医療技術専門学校時代からの同窓会、通称「つめ草会」と統合して以来、年代の幅を超えたつながりをもっています。看護学校時代～医療技術専門学校時代の先輩方とつながりを持つことで、さらに歴史ある鹿児島大学の卒業生として、同窓生としての誇りをもつことができました。これからも先輩方や後輩とのつながりを大切に邁進していきたいと思っております。

(文責：医学部保健学科同窓会看護学専攻部会 会長 梅木隆志)

2020年になり輝かしいオリンピックイヤーとなるはずであった今年、世界に拡がったCOVID-19による影響で今までのすべてが変化しました。人々の生活は制限され、人との交流もはばかれ、未知のウイルスへの不安と自分が感染していないかとの不信と恐怖、息の詰まるような閉塞感との闘いがまだ続いているかと思えます。

鹿児島でも感染が確認されましたが、幸いにも広がることはなく徐々に日々の生活を取り戻しつつあります。しかし今でもなお未知のウイルスの恐怖と向き合いながら一人一人の患者さんと向き合いながら仕事をされている卒業生やその関係者、そしてすべての医療従事者に心より感謝とエールを送らせて頂きます。

一刻も早い収束と、新しい生活を確立し不安な毎日ではなく、前向きに隣の人と手に手をとりながら夢を語り合い笑顔の絶えない生活を送れるよう日々前向きに考えています。

しかし生活における自粛生活も悪いことだけではなかったと思います。自宅で過ごす時間が増え、家族団らの楽しみが増え時間に追われる速度が緩やかになったときの心のリラックスを感じ、心身ともに健康であること、人として生きることを少し立ち止まって考える機会を得ることができたと思います。我々リハビリテーションに携わる職業では、やはり患者さんの心に寄り添うことを大事にする必要があると考えております。今回の経験を今後のリハビリテーションに活かしたいと思う次第です。

最後になりますが、今回COVID-19と今なお闘い続けている世界中の医療従事者の皆様に心より感謝を申し上げると共に、患者さんたちの一刻も早い回復とお亡くなりになられた皆様のご冥福を心よりお祈りいたします。

(文責：医学部保健学科同窓会理学療法専攻部会 会長 宮崎雅司)

歯学部同窓会

歯学部同窓会 主な行事のお知らせ

令和元年

- 10月 6日 オールデンタル報告会 ジェイドガーデンにて開催
26日 第72回九州歯科医学大会 長崎にて開催
村上会長、川越専務 支部長はじめ同窓生22名参加
24日 日本歯科医師連盟参与会議 東京にて
村上会長参加
30日 第二回 DeeR WOMAN コアメンバー会議開催
11月 9・10日 全国歯科大学同窓・校友会懇話会、国公立大学歯学部同窓会連絡協議会の開催（長崎にて）
村上会長、川越専務、西九州支部小野原先生 出席
22日 進路相談会開催（歯学部にて、5年生・研修医対象）
パネラー 是枝美行先生（歯学部3期卒） 園田 悟先生（九州大学歯学部卒）
30日 歯学部同窓会総会・学術講演会・懇親会の開催
（天文館リバティークラブにて）
同窓会奨励賞 受賞者
岩崎 智憲 先生（小児歯科学分野，准教授）
榮樂 菜保子 先生（歯周病学分野，大学院博士課程4年）
12月 3日 解剖慰霊祭 村上会長出席
12日 鹿児島大学70周年記念行事 村上会長が出席

令和2年

- 2月 2日 6年生国家試験後の打ち上げ会 同窓会からの支援・参加（福岡）
川越専務、村口大学支部長、後藤先生 参加
13日 馬嶋秀行教授 退官講義 退官記念品贈呈 村上会長出席
22日 令和元年度九州5大学歯学部同窓会連絡協議会 佐賀にて開催
村上会長、川越専務と西九州支部から小野原専務理事出席



総会万歳三唱



同窓会奨励賞受賞者
左から 榮樂先生、村上会長、岩崎先生

工学部同窓会

工学部同窓会庶務幹事 酒匂一成

鹿児島大学工学部同窓会では、工学部の学生会員の諸活動と幅広い交流の助成を目的とした“工学部同窓会学生活動助成金”および工学部、理工学研究科、工学部同窓会の発展に資する諸活動の支援を目的とした“工学部同窓会諸活動支援”を創設しています。令和元年度は、年度末に新型コロナウイルスの影響でやむを得ず中止になった行事もありましたが、多くの会員の諸活動の助成および支援を行いました。以下に、令和元年度の助成・支援内容についてご報告いたします。



秋季環境化学プロセス・化学生命工学
ソフトボール大会

工学部同窓会学生諸活動助成金

- 令和元年 6月8日 環境化学プロセス工学科
環境化学プロセス工学科・化学生命工学科ソフトボール大会（50名）
- 令和元年10月16日 海洋土木工学科 研究室配属、進学・就職相談会（90名）
- 令和元年11月9日 電気電子工学科 第50回電気電子工学科バドミントン大会（42名）
- 令和元年11月9日 化学生命工学科 秋季環境化学プロセス・化学生命工学 ソフトボール大会（60名）
- 令和元年11月12日 建築工学科 建築学科1年生 懇親会（87名）
- 令和元年11月23日 工学部体育祭

工学部同窓会諸活動支援

- 令和元年 6月22日 南窓舎密会
南窓舎密会東海支部による本部支部合同ご当地旧教員を囲む交流会（40名）
- 令和元年 9月28日 AOI会 建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」（180名）
- 令和元年10月26日 錦水会 学生向け講演会「きばっど会」（110名）



南窓舎密会東海支部による本部支部合同ご当地旧教員を囲む交流会

農学部あらた同窓会

「令和元年度総会」と「農学部開学110周年記念ミニ式典」を開催

農学部あらた同窓会では、平成21年に「開学100周年記念式典」を大々的に行いましたが、その後10年が経過した令和元年に「令和元年度鹿児島大学農学部あらた同窓会総会」（令和元年11月23日開催）において、農学部と共催で「農学部開学110周年記念ミニ式典」を開催しました。総会および「ミニ式典」の出席者は82名でした。

- (1) 「令和元年度総会」では、熊本 修氏（園 S59卒）の司会で①平成30年度事業報告（案）等および会計監査報告、②令和元年度事業計画（案）等、③功労者表彰者の推薦（案）、④会則改正（案）、⑤役員交代・改選（案）について審議され、いずれも承認されました。
- (2) 「農学部開学110周年記念ミニ式典」では、藤田晋輔農学部あらた同窓会会長および橋本文雄農学部長の挨拶に引き続き、北原兼文農学部副学部長（化 S63卒）の「開学100周年以降の農学部の動き」という記念講演の後、「農学部あらた同窓会」功労者表彰を行いました。（詳細については「あらた同窓会報 令和2年春季号」に詳述してあります）

① 「ミニ式典」における記念講演「開学100周年以降の農学部の動き」の概要

北原農学部副学部長の「記念講演」では、鹿児島大学農学部における開学以来の110年間に輩出された卒業生・修了生は約20,000名に上ること、昭和63年に設置された鹿児島大学大学院連合農学研究科における博士の学位取得者は1,000名を超えていること等について祝意を表された後「農学部の教職員数、在学生数、卒業後進路」および近年の農学部における教育・研究の特長として、「フィールド実践教育」、「世界に向けたグローバル教育」、「社会人・リカレント教育の充実」、「教育・研究および地域貢献」が挙げられることおよび「平成28年農学部の改組」ならびに「平成31年度大学院農林水産学研究科の設置」等について紹介されました。



北原副学部長による「農学部開学110周年記念講演」の様子

② 「あらた同窓会功労者表彰」

「農学部あらた同窓会功労者表彰者」として9人の方が決定された（下表）ことについては、令和2年1月発行の「鹿児島大学同窓会連合会報 No.29」にて紹介しましたが、「開学110周年ミニ式典」において5人（表彰者の写真）が出席して、表彰式が行われ、表彰状および副賞を授与いたしました。その後の懇親会において、遠方からご出席いただいた日高康貴兵庫あらた会会長、山下高德兵庫あらた会副会長、濱脇吉乃夫岡山あらた会前会長の順に謝意の挨拶が述べられました。

あらた同窓会功労者(令和元年11月23日)			
推薦母体	氏名	卒業学科年次	年齢
兵庫	日高 康貴	獣昭37	85
	山下 高德	農昭37	83
岡山	濱脇 吉乃夫	農昭37	81
熊本	東 正隆	総農昭38	79
鹿児島	藤田 晋輔	林昭37	80
	前田 芳實	畜昭42	74
	永田 鉄山	蚕昭30	87
	堀之内 達男	獣昭33	87
	富永 茂人	園昭48	70



あらた同窓会功労者表彰者（出席者のみ、写真左から富永、藤田、濱脇、山下、日高各氏）

水産学部同窓会魚水会

水産学部の定員は一学年140名で鹿児島大学の中では3番目に少ない学生数です。又、国立大学の水産学部は全国で3つしか無く85%以上の学生は北海道から沖縄まで鹿児島県外からの学生です。そしてその卒業生の90%近くは県外に就職して行きます。魚水会支部は東北から沖縄まで19支部で活動しています。又、昔は水産学部と言えば男子学生ばかりでしたが最近の傾向として女子学生が増加の一途をたどり40%の学生は女子学生です。そのような訳で魚水会も女子会員や若手会員の積極的な参加を呼び掛けています。

魚水会の名前の由来は『三国志』で有名な「蜀志・諸葛亮伝」の蜀帝・劉備玄德と名将・軍師の諸葛孔明の水魚の交わりの関係や水産に関連の水と魚を結び付け初代学部長・山本清内先生が78年前に命名されました。なお、山本先生は水産学部正門ロータリーにある『海を怖れず、海を愛し、海を拓け』の水産学部のポリシーも提唱され今でも会員の皆様の大きな精神的バックボーンになっています。

今年は新型コロナウイルスの影響で活動が限られていますが、最近の活動を報告します。

同窓会報誌『魚水』発行

毎年、年2回（春夏号（お盆前）、秋冬号（正月前後））発行しています。

編集委員には記事や編集が偏らないように学内、学外に限らず80代のベテラン編集委員から女性委員4名、二十歳前後の学生委員2名を含めて23名がボランティアで頑張ってもらっています。そして住所が判っている外国を含めて全会員や教職員はもちろん全学生に配布しています。記事は日本国内にとどまらずブラジル、キリバスなど外国や全国の会員や学生などから募集しています。表紙も時々のタイムリーな写真を採用しています。



最近の編集委員会風景

全国東北から沖縄まで19支部ある各地の支部を毎年、2～3カ所をローテーションで支部総会に出かけて、本部と支部の交流を深めています。（本部と支部交流費より支出）

最近では新型コロナウイルスが蔓延する前の令和2年1月18日東海支部定例総会に本部から岩元会長が参加しました。参加者は女性会員2人を含めて24人が名古屋市名鉄グランドホテルで開催され、最後は『北辰斜めにさすところ』や『水産学部校歌』など歌い学生時代に返って大いに盛り上がりました。



鹿児島大学水産学部・同窓会 魚水会
東海支部 第16回定例会 令和2年1月18日 名鉄グランドホテル

共同獣医学部紫友同窓会

1. ベストクラスメート賞

本年度は32名の卒業生が巣立って行きました。彼らがこれからの獣医療界を牽引する活躍を見せてくれることを期待しています。

例年卒業式当日の午後に行われる学部の学位記授与式において、同窓会としてベストクラスメート賞を授与してきました。本賞は卒業までの6年間にクラスのまとめ役を熱心に行った男女会員1名を表彰するものです。今年度受賞者の丸山覚詞、野中美和の両氏には事務局に来ていただき、新納会長から賞状と記念品が手渡されました。



左から宮本前学部長、野中美和さん、丸山覚詞君、新納会長

なお、卒業式当日の夜に学部と共催して開催する予定で準備を進めていた卒業記念パーティーは、新型コロナウイルス感染症予防のために中止としました。学部教職員と同窓会役員で卒業生の晴れの門出を祝う事は叶いませんでしたが、彼らが社会人として活躍してくれることを祈っています。

2. 事務局会議

5月29日（金）に学部内で会長同席のもと事務局会議を開催し、評議員会で審議する議題及び報告事項について検討しました。その中で、新型コロナウイルスの感染症の予防対策の観点から今年度の評議員会は書面会議とすることが確認されました。

▶特別寄稿文◀

アジア初、獣医学教育の国際認証を取得

共同獣医学部・前学部長 宮本 篤

本学共同獣医学部は、山口大学の共同獣医学部と共に令和元（2019）年12月11日オーストリアで開催された欧州獣医学教育委員会会議において欧州獣医学教育機関協会（EAEVE; European Association of Establishments for Veterinary Education）の国際認証をアジアで初めて取得致しました。この取り組みは、文部科学省による国立大学改革強化推進補助金「国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築」（帯広畜産大学・北海道大学・山口大学・鹿児島大学）の支援を受けて行われたもので、同日、北海道大学、帯広畜産大学もEAEVEによる認証を取得致しました。

私達は、EAEVEによる公式診断を同年6月9～14日（本学訪問は11～14日）に受審し、賞賛点として①非常に意欲的で意識の高い学生と教職員、②両大学の献身的な努力と、継続的な向上を目指す各教職員、③公式事前診断で指摘された欠陥事項の迅速な改善、④効果的な実習と臨床トレーニングを可能にしている少人数グループ制、⑤両校の附属動物病院施設における小動物診療の最新鋭のテクノロジーと業務手順、⑥山口大学における実験動物を使用した質の高い実地教育及びスキルスラボへのしっかりした設備投資、⑦教員による最新式同時配信授業システムの駆使、⑧模範的な食品安全品質の実習が挙げられました。また、懸念事項としては、①山口大学のウマ臨床施設、②山口大学の大動物隔離施設、③両大学におけるウマと伴侶動物患者の一次診療の臨床ハンズオントレーニングの3つが最適ではないという「軽微な指摘」を受けました。ただし、主要欠陥事項はありませんでした。その他、改善に向けた提案事項として、①ステークホルダー及び学生の学部運営への参加の強化、②活動、施設、特性を更に共有する2大学の協同強化、③学習プログラムと臨床記録システムの2大学での協調、④基礎科学分野におけるサポートスタッフ増員、⑤獣医師の専門化を図る日本獣医師会による卒後教育システムの実施が挙げられました。

公式診断の評価要旨において、「欧州獣医学教育評価基準（ESEVT）に準拠しない事項（すなわち、主要欠陥）は一切認められないことから、視察チームにより、2大学による共同獣医学部に対して、認証ステータスを欧州獣医学教育委員会（ECOVE）に推薦する」という総括を受け、同年12月のECOVEにおいて、「Accreditation Status（完全認証）」であることが認められました。本学部ホームページには既に、自己評価報告書、視察報告書等を公表しております。

今後は、指摘された「懸念事項」および「改善に向けた提案事項」を改善し、7年毎に行われる次の診断に備えなければなりません。今回の認証取得は、獣医学教育改革の通過点であり、更なる獣医学教育の改善に取り組む所存です。これからも皆様方の益々のご協力とご支援をお願い申し上げます。

▶特別寄稿文◀

法文学部の改組と法学教育の国際化

法文学部長 松田忠大

平成29（2017）年度に、法文学部は改組され、今年度その完成年度を迎えます。この改組の主なコンセプトは、人文社会科学に関する総合力をもった、広く社会に貢献できる人材を育成する学部をつくることでした。効果的にこれを実現するために、改組後のカリキュラムには、「深く学ぶための」専門科目はもちろんのこと、「広く学ぶための科目」および「学びを活かすための科目」が配置され、学生が、人文社会科学の基礎から実践までを段階的に学習できる構成になっています。「広く学ぶための科目」としては、学部共通必修科目としての「人文社会総合論」が新規開講され、すべての法文学部生は、学科・コースの垣根を超えて人文社会科学の基本的な知識・学びの視点を広く身につけることができるようにしました。また、「学びを活かすための科目」については、各コースに配置された演習・実践科目のほか、学部共通の法文アドバンスト科目としての「観光学」、「島嶼ツーリズム論」、「まちづくり論」、「マスコミ論」、「海外異文化体験実習」などが新設・配置されました。これらの科目には、大学の教室外での活動、すなわち、学外での研修、調査研究・発表等が含まれています。

私は、「学びを活かす科目」のうち、法学コースが開講する「実践演習（外国の法を学ぶ）」を担当しています（今年度からは法文アドバンスト科目のうち「海外異文化体験実習」も担当予定）。私が大学の法学部に入学して法律を学び始めた当時は、一般的な法学部には海外研修を含む科目はほとんど開設されていなかったように思います。現在では、経済活動のグローバル化は、その当時に比べて一層進展しております。そのため、国境を跨いで法律問題が生じることも珍しくなく、社会は、こうした問題に挑み、解決することができる人材を求めています。渉外的な法律問題に対応できる人材育成、すなわち、法学教育の国際化は重要な社会的ニーズであると言えます。こうしたニーズを踏まえ、2014年度に、海外研修を含む科目としての「法律学特殊講義（外国の法を学ぶ）」が、改組前の法政策学科に開講されました。改組後の「実践演習（外国の法を学ぶ）」は、その内容をより充実・発展させたものです。

この科目は、毎年9月に集中講義として実施され、2014年度から2019年度までの6年間に27名が履修しました。この科目の履修者は、本学内において法律英語の基礎知識を身につけた後、カナダ・ブリティッシュコロンビア州にあるヴィクトリア大学での研修に出かけます。同大学では、ロー・スクールが開講する科目を受講するとともに、法律問題をテーマとしたプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションでは、履修者は、事前に与えられたテーマ（これまでのテーマとして、「Corporate Social Responsibility in Japan」、「Gender and Law in Japan」など）について研究した成果を英語で発表します。発表が終わると、息つく暇もなく、ヴィクトリア大学の教員・学生による容赦のない英語での質問攻めに晒されます。この研修に参加する学生の多くは、法律問題についての英語による発表経験はないため、ほとんどの学生は英語での応答に苦戦します。この科目では、学生に、専門として学習している法律学の知識を英語で活用する能力を身につけてもらうことが主な目的ですが、学生が自己の英語力レベルを実感することにより、今後の学習意欲を高めてもらうことも重要な目的と考えています。このほか、立法府であるブリティッシュコロンビア州議事堂での研修、および州裁判所における裁判傍聴も実施されており、この研修では、法律学の理論と実務の双方を英語で学習することができます。

法文学部では、法文学部同窓会のご寄附により学部の教育研究活動のための「法文学部同窓会教育研究助成基金」が設立・運用されています。これまでに、ここに紹介しました「実践演習（外国の法を学ぶ）」を履修した学生は、この基金によるご支援をいただきました。こうしたご支援により、法文学部における「学びを活かすための科目」の充実が図られています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域社会・国際社会を舞台とした学外実習等の実施が困難な状況にあります。今後も、実践力のある人材を育成するために、地域性・国際性のある実践科目をより充実させていきたいと考えています。法文学部同窓会には、引き続き、法文学部の教育研究活動へのご理解とご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

令和2年度鹿児島大学同窓会連合会総会 および懇親会の開催延期のお知らせ

令和2年4月11日（土）に開催を予定しておりました令和2年度鹿児島大学同窓会連合会総会および懇親会は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、参加者の安全確保と感染拡大防止の観点を踏まえ、開催を当面延期することとなりました。

総会の審議事項となっております下記の事項につきましては、役員会（令和2年3月18日（水）開催）の審議を終え、総会に付議することとしております。

- 令和元年度事業報告（案）
- 令和元年度決算（案）
- 令和2年度事業計画（案）
- 令和2年度予算（案）

なお、令和2年度予算（案）については、役員会の承認をもって、暫定予算の取扱いとし、平年度実施の事業にかかる予算の執行を認める取扱いとしております。

以上につきまして、同窓生の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

延期後の総会の開催日程は、後日改めて同窓会連合会ホームページ等を通じてお知らせいたします。

鹿児島大学同窓会連合会事務局

令和2年3月18日開催の役員会において了承済の内容を掲載しております。
現在延期中の令和2年度総会における審議、決定をもって確定版となります。

令和元年度一般会計決算書(案)

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

令和2年3月31日現在

(単位：円)

収入の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考
繰越金	190,883	190,883	0	
学部別同窓会分担金	900,000	900,000	0	
総会・懇親会費	1,170,000	1,326,000	156,000	6,500円×204名分
OBゴルフ大会協力金	50,000	50,000	0	
雑収入	5	5	0	利子
繰入金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
合 計	2,310,888	2,466,888	156,000	

支出の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考	
会議費	100,000	109,581	9,581	幹事会・役員会	
総会・懇親会費	1,260,000	1,400,242	140,242	総会会場費・懇親会費	
印刷費	500,000	472,566	▲ 27,434	会報28号、29号(支部分含む)	
事務費	備品費	10,000	508	▲ 9,492	鹿大寮歌集CD
	通信運搬費	30,000	25,548	▲ 4,452	郵送料、DM便送料、振込手数料
	消耗品など	10,000	1,987	▲ 8,013	コピー用紙など
旅費	50,000	50,000	0	福岡支部総会(会長)	
雑費	10,000	520	▲ 9,480	残高証明手数料	
慶弔費	30,000	0	▲ 30,000		
予備費	310,888	32,400	▲ 278,488	稲盛和夫氏名誉県民第一号表彰広告費	
合 計	2,310,888	2,093,352	▲ 217,536		

次年度繰越金：2,466,888 - 2,093,352 = 373,536円

令和元年度定期貯金決算書(案)

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

通帳(郵便定期)	400,000
郵便定期貯金利息	136
合 計	400,136

令和2年3月18日開催の役員会において了承済の内容を掲載しております。
現在延期中の令和2年度総会における審議、決定をもって確定版となります。

令和2年度一般会計予算書(案)

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

(単位：円)

収入の部

項目	前期決算額(A)	予算額(B)	増減(B) - (A)	備考
繰越金	190,883	373,536	182,653	令和元年度繰越金
学部別同窓会分担金	900,000	900,000	0	振込手数料は振込者負担
総会・懇親会費	1,326,000	1,300,000	▲ 26,000	200名×6,500円
OBゴルフ大会協力金	50,000	50,000	0	
雑収入	5	5	0	利子
繰入金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
合 計	2,466,888	2,623,541	156,653	

支出の部

項目	前期決算額(A)	決算額(B)	増減(B) - (A)	備考	
会議費	109,581	120,000	10,419	幹事会・役員会	
総会・懇親会費	1,400,242	1,400,000	▲ 242	総会会場費・懇親会費	
印刷費	472,566	500,000	27,434	会報30号、31号(支部分含む)	
事務費	備品費	508	10,000	9,492	
	通信運搬費	25,548	30,000	4,452	郵送料、DM便発送料、振込手数料
	消耗品など	1,987	10,000	8,013	コピー用紙など
旅費	50,000	130,000	80,000	福岡支部総会【毎年開催】・ 関東支部総会【3年毎開催】(会長)	
雑費	520	10,000	9,480		
慶弔費	0	30,000	30,000		
予備費	32,400	383,541	351,141		
合 計	2,093,352	2,623,541	530,189		

令和2年度定期貯金予算書(案)

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

通帳(郵便定期)	400,136
郵便定期貯金利息	32
合 計	400,168

鹿児島大学同窓会連合会事務局並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会事務局

〒890-8580
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-7034
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-40
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail aratakai@mc2.seikyounet.jp

鹿児島大学理学部同窓会南明会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-35
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

〒890-0056
鹿児島市下荒田4-50-20
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3538/8711 (FAX 兼用)
e-mail k2088185@kadai.jp

鹿児島大学 同窓会連合会

〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-7034
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷 株式会社鹿児島新生社印刷
〒891-0132 鹿児島市七ツ島1-3-21
TEL 099-261-0111 FAX 099-261-3100
e-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp

